

箱根町における観光事業者・及び宿泊事業者の 持続可能な観光に関する取組例

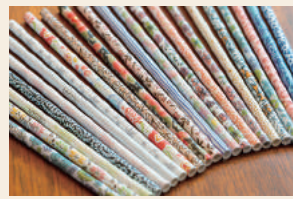


仙景プラザ、ホテル仙景
山家荘
若女将
津田かおりさん

若女将は2030SDGs公認ファシリテーター

「カードゲームと振返りを通してSDGsを伝える「2030SDGs公認ファシリテーター」という資格を取り、私個人としても地域のSDGs推進に努めると共に、当館でもさまざまな取組みをしています。具体的にはSDGsを推進する異業種の皆さんとコラボしたプランを企画しました。「ゴミを出さない」をコンセプトにした雑貨やコスメを販売するセレクトショップさんの環境に優しいアメニティを提供するプランや、発達途上国の子供たちを支援する団体に宿泊費の一部が寄付できるプランなど。また、地産地消やアニマルウェルフェアという観点から、地元の養鶏場さんから仕入れた平飼卵の提供や、

お部屋の備品も箱根の伝統工芸品である寄木細工を使った物をご用意しております。美濃焼の陶器製ストローや間伐材から作られた箸を利用するなど環境を意識した取組みもしています。無理や我慢だけではSDGsは広がりません。「かわいい」や「素敵」といった女性目線を取り入れたSDGsを私たちの形で発信し、それがお客様・提携業者さん・私たちひいては地球規模の「喜の循環」となっていけばいいなと思っています。



間伐体験のツアーの提供や、地域のジビエを提供

「ホテルインディゴ®」は、コンセプトがネイバーフッド（地元、ご近所）、その土地でしか出逢えない体験を提供しています。世界約125か所で展開されるホテルブランドです。SDGsはグループ全体で推進しており、私たちも地元の事業者さんと連携しながらさまざまな取組みをしています。例えば、間伐体験のツアーでは、箱根の間伐材が利用されず処分されているという話を聞き、林業の方にご協力を仰ぎアクティビティの企画を立てました。間伐材を使ったお箸作り体験なども行っています。



また、レストランでは、薪のグリルというのを売りにしており、これは間伐材の利用促進だけでなく省エネにも寄与しています。また、地域で害獣として捕獲されたシカを地域資源として活用するため、地元産のジビエをメインメニューに取り入れました。何かを始めるにしても仕入れるにしても、私たちは「ネイバーフッド」をキーにしています。まずは近隣から情報を取り入れ、地元の方に絡んでいただき、そこからアイデアが生まれます。実現したいことが増え収拾がつかなくなる時もあるのですが、



ホテルインディゴ箱根強羅
総支配人
山田智章さん

つながり食堂で地域の子どもたちに温かいご飯を食べる場所を

飲食店を営んできたこの箱根町に何か還元したいという思いで、月1回、つながり食堂というのを運営しています。孤食が増えているといわれる昨今、地域の子どもたちやシニアの皆さんに「温かいご飯を誰かと一緒に食べる場所」を提供したいと考えています。この活動を通して、食品ロスの軽減にも取り組んでいます。自身の店だけでなく、地元の事業者さんから余った食材を提供してもらっています。また、小さな取り組みでいうと、ストローを紙にしています。すべてのことがSDGsを意識してできているかと言われるとそうではないのですが、できることを一つでもやっていこうという思いでやっていま

す。こうした活動の原点は、良い父親でいたいという思いです。今小学生の娘には手伝いに来てもらっており、それが、彼女にとっても貴重な経験になっています。ですが、私たちの活動は地域にとってまだまだ小さな前進にしかありません。それがもどかしいです。行政に後押ししていただき、横に広がっていけばもっと大きな力になると思っています。



箱根かれ一心
店主
佐藤誠さん
(行政書士)

箱根町

持続可能な観光に関する調査レポート

訪れる人に
気づきを与える
場所
～ SDGs Show Room ～

箱根町は、令和3年度（2021年度）の観光庁「日本版持続可能な観光ガイドラインモデル事業」のモデル地区に選定され、ガイドラインに沿った持続可能な観光地づくりに協賛しています。

持続可能な観光とは？

「訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光」

UNWTO 国連世界観光機関による定義

簡単に説明すると

- 1 環境に優しい

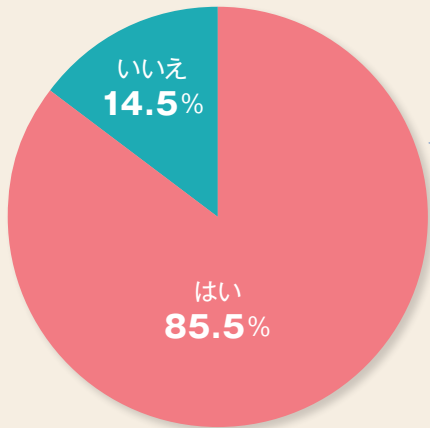
自然遺産や生物多様性の保全を図りつつ、観光開発において鍵となる環境資源を最適な形で活用する
- 2 経済成長ができる

観光によってその地域で、安定した雇用、収入を得ることができるように、そして貧困緩和に貢献する
- 3 社会文化的に好ましい

地域の伝統的な価値観を守り、異文化理解や異文化に対して寛容になる

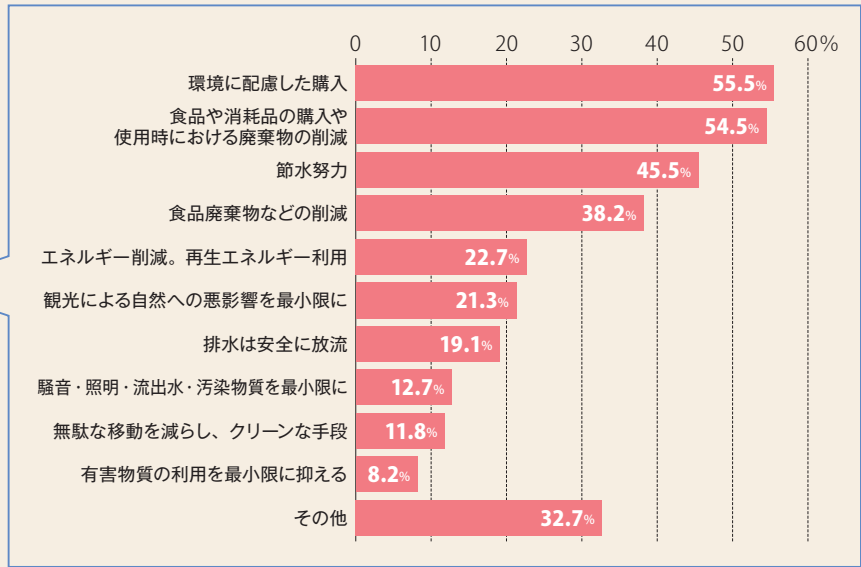
箱根町における観光事業者及び宿泊事業者の持続可能な観光に関する取り組み調査

1 現在、貴施設で、SDGsに関する取り組みをしている、あるいはその認識ですか？



箱根町のほとんどの観光関連施設は、SDGsに関連した取り組みをしているとの回答だった。業種別に見ると、特に観光施設や飲食店・物産・小売などは「はい」の割合が高く、回答件数の多い宿泊施設は回答した47件のうち39件が「はい」、8件が「いいえ」と回答、全体的に意識が高い結果となった。

2 1ではいと回答した方に。具体的にどのようなものを行なっていますか。



取組として最も多かったのは、「環境に配慮した購入(例：再生品など環境負荷ができるだけ小さいものを優先購入、アメニティー・ストロー・レジ袋など)」(55.5%)、「食品や消耗品の購入や使用における廃棄物削減(例：アメニティー・ストロー・レジ袋など)」(54.5%) が上位の2項目で、食料品や日用品などの購入時や使用時において環境を意識していることが分かる。次いで、「節水努力」(45.5%)、「食品廃棄物の削減」(38.2%)、「エネルギーの削減、再生エネルギー利用」(22.7%)、「観光による自然への悪影響を減らす」(21.3%)、と20%以上の項目が続いた。

旅行や観光分野のサステナビリティへの取り組みに関する意識調査

●旅行や観光していて問題だと感じることは？

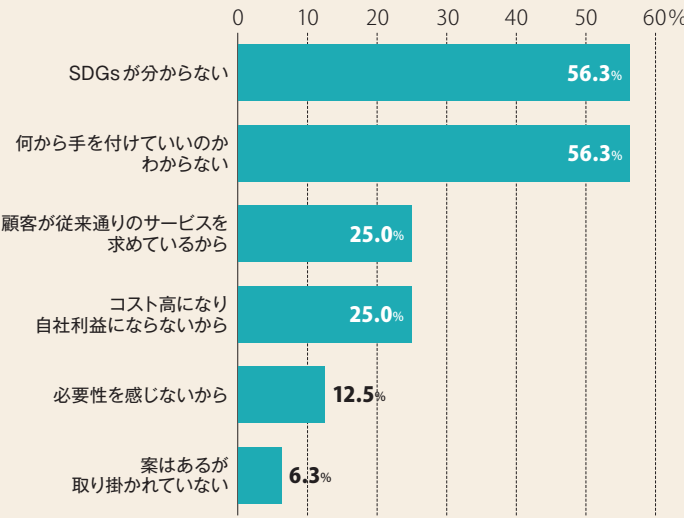
旅行先でゴミ・廃棄物がボイ捨てされている、または適切に清掃や廃棄(分別含む)がされていないこと	41.4%
旅行先で多くの食品が廃棄されていると感じる、または食べきれない量の食事が提供されること	35.2%
気になることはない	25.4%
宿泊施設で過度なサービス(不要な使い捨てアメニティの提供や頻繁なタオル・シーツ等の交換など)が提供されること	24.3%
地域固有の工芸技術、古典芸能、方言、風習などの無形・民俗文化が継承されず廃れつつあること	22.8%
自然環境や地域固有の景観が保全されていないこと	20.4%
地域固有の建築物、史跡等の有形文化・記念物が失われつつあること	20.3%
車や飛行機などでの移動によってCO2が排出されること	17.7%
宿泊施設や観光地がサステナビリティに積極的に取り組んでいないこと	8.4%
その他	0.6%

出典：「旅行や観光分野のサステナビリティへの取り組みに関する意識調査」2021. 楽天トラベル

●宿を選ぶときに好感をもち参考にしたいもの

食材の地産地消や郷土料理の提供など、地域の食文化の提供への取り組み	40.4%
フードロスや使い捨てアメニティなどの廃棄の減少、削減への取り組み	39.8%
連泊時のタオルや寝具シーツ等の過度な洗濯、交換を控えることができる、またバスルームの節水など、水の使用量削減への取り組み	34.7%
再生可能エネルギーやLED照明の導入など、CO2の削減や節電・省エネへの取り組み	28.8%
地域の観光スポットや店舗、コミュニティの発展の支援への取り組み	25.8%
サステナビリティの取り組みは特に参考にしない	25.3%
環境ラベルが付いたアメニティの採用や自然環境保護活動への参加、寄付など、自然環境保護への取り組み	24.8%
ユニバーサルデザインの採用や幅広い人材の雇用など、多様性ある環境の実現への取り組み	24.3%
地域の伝統的な行事、工芸、芸能、建築を体験・学ぶことができる、またはそれらを守るための取り組み	24.1%
その他	0.2%

3 1でいいえと回答した方に。実施できていない理由を教えてください



「SDGsが分からない」(56.3%)と「何から手を付けていいのかわからない」(56.3%)が最も多い。次いで「顧客が従来通りのサービスを求めているから」(25%)、「コスト高になり自社利益にならないから」(25%)が続く。次の「必要性を感じないから」(12.5%)の回答も「顧客が従来通りのサービスを求めているから」に近い理由である。

今後、どのような支援・補助があれば取り組みやすくなるか

- 機器購入への補助金など財政的な支援(全業種)

●取り組み事例の紹介、パートナー企業の認定(宿泊施設)

●講演やチラシ・動画などで町民への情報発信(飲食)

●アドバイザーやコンサルタントなど、取り組みがしやすいところから出来る事への助言などの支援体制(観光施設)
- 再加工作品をSDGsの取り組みとしての展示、販売等をする場の斡旋、協力(事業者)

●観光業界×学校教育×社会教育の連携強化と予算化(宿泊施設)